

90年の歴史をもつ 鳥栖山笠

日本の夏と言えば、やっぱり祭り！毎年、本通筋商店街を中心で6基の山車が練り歩き、町を熱くする「鳥栖山笠」。今年2年の中止を経て開催が決定しました。さあ、夏を感じに見に行こう！

90年の歴史をもつ 「鳥栖山笠」。

七月、子どもたちの夏休みが始まって最初の土曜、日曜日。威勢のいい「ワッショイ、ワッショイ」、「エイサ」、「オイサツ、オイサツ」といった掛け声とともに、山車を勢よく揺らす締め込み姿の熱い男達の姿が鳥栖の町を活気づけます。第一回の開催から、今年で94年目を迎える「鳥栖山笠」。太平洋戦争での中断、大水害での中止などあつたものの、長い歴史を越えて現在まで継承されてきました。

一昨年、昨年と二年連続で新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていましたが、今年は抗原検査のクリア、感染症対策、前夜祭や直会などの縮小を条件にて開催が決定しました。

その発祥は諸説ありますが、昭和三年に八坂神社の「祇園祭」をなんとか賑わせる方法はないかと、博多山笠に着目し、秋葉町有志の呼びかけで地域の発展を願つて興されたものがはじまり。博多

前夜祭や直会などの縮小を条件にて開催が決定しました。

昔は旧暦七月十三～十五日の三日間と決められていましたが、現在は子どもが参加できるようになると夏休み最初の土日に行われています。お祓いを済ませた山車は、両日とも「八坂神社」を出発。「總がぶり」では本通筋商店街周辺を練り歩き、「祇園旗廻り」では中央公園で旗の周りを回って速

付き合いだが、祭りとなるとやっぱり違うコミュニケーションが生まれる」「3世代で参加していく、感慨深い」という声も。

昔は旧暦七月十三～十五日の三日間と決められていましたが、現在は子どもが参加できるようになると夏休み最初の土日に行われています。お祓いを済ませた山車は、両日とも「八坂神社」を出発。「總がぶり」では本通筋商店街周辺を練り歩き、「祇園旗廻り」では中央公園で旗の周りを回って速

山笠を模して始められました。当初四基だった山車は、現在一一番山から六番山までの六基に、子ども山もあります。

現在、参加者は地域住民を中心的に、知人や友人、県外へ出た元地元住民や近隣のエリアからなどさまざま。住人が少ない町では、市内の中日本語学校に通う外国人留学生を招き日本の祭りを体験しても

山笠を模して始められました。当初四基だった山車は、現在一一番山から六番山までの六基に、子ども山もあります。

現在、参加者は地域住民を中心的に、知人や友人、県外へ出た元地元住民や近隣のエリアからなどさまざま。住人が少ない町では、市内の中日本語学校に通う外国人留学生を招き日本の祭りを体験しても



今村 雄紀さん



牛嶋 優弘さん



永瀬 太郎さん



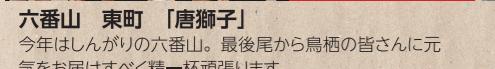
齋藤 康治さん



松本 貴記さん

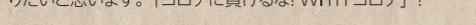


鶴野 法司さん



六番山 東町「唐獅子」

今年はしんがりの六番山。最後尾から鳥栖の皆さんに元気をお届けすべく精一杯頑張ります。



五番山 秋葉町「浮立面」

コロナの終息を祈念しながら2年分の想いを込めて頑張りたいと思います。「コロナに負けるな！WITHコロナ！」



四番山 京町「京町恵比寿」

外国人学生の方も参加予定です。皆さんも一緒に楽しんでください！

必見！迫力満点の 山車とその技。

さを競います。

**赤堀に繼承し、
より活氣ある祭りに。**

「がぶり」とは、山車を男たちが大きく前後に揺さぶること。何百キロとある山車。山車の上には、大人も4～5人乗っています。その山車を勢いよく揺さぶる姿や山車を激しく激しく回転させる「差し廻し」は見る者を圧倒します。また、山車を子どもたちも綱で引っ張り、かわいい法被姿は見物客に笑顔をくれます。山車の技が、各山によって披露され、地域住民からは「力水（ちからみず）」と呼ばれる応援の意味を込めた水がまかれます。

鳥栖山笠を盛り上げるその山車は「舞台」とも呼ばれ、6基の特色あるデザインはそれぞれに赴きがあり、その意味もそれぞれ。今年一番山を務める本通町の「神楽獅子」は神前で奉納する獅子舞です。本町の「飛びたつ鷲」は、子どもたちが大きく力強く飛び立つようにとの願いが込められています。中央区の「弁慶号」は開拓時代の北海道で活躍したSL弁慶号のミニチュア。「鉄道の町・鳥栖らしい山車」と登場しました。

今年は基礎から作り直し四代目が

披露されます。京町は「京町恵比

寿」といって七福神の一員である福の神が祀られています。秋原町の「浮立面」は鬼を表しています。己の中にある目に見えない「鬼」と向き合い、「福」に変えて内に返す。さらには「魔除け」として民の健康と安寧を願う意味があります。東町の山車は町の守り神になるよう願いを込められた「唐獅子」です。舞台のデザインには住民の平和や健康などさまざまな願いが込められています。

今まで町ごとでの団結が強かった「鳥栖山笠」ですが、ここ10年ほどで町同士の横つながりも強くなっています。法被などを町ごとにそろえ、開催に際し話し合いを重ね、SNSを使った広報活動なども行っています。「子どもたちがかつこいい！」と思える見に来てもらえるような祭りにしたい」「祭りを継承していくために」と山輿会の皆で団結し尽力しています。是非、みなさまも熱い日本の祭りを体感し、夏の始まりを楽しんでください。

※今年は子ども山はありません。



①「總がぶり」(祇園旗廻り)を終えた山車は八坂神社にもどり、山ごとに締めが行われます。/②「がぶり」の様子。人を乗せた山車が前後におよそ揺さぶられる姿は迫力満点です。/③2022年開催に向けた山会見の話し合いの様子。各山から代表者が集まります。

